



R I. 第2620地区 静岡第1グループ  
三島西ロータリークラブ

# 週報

第2173号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F  
TEL(055)976-6351 FAX976-6352  
例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹  
TEL(055)975-3210  
会長 佐野 宏三 幹事 前田 博利



広重版画より 三島 朝霧

## 第2240回例会

2019.3.28(土)

### 司会

花房孝光君

### ロータリーソング

「それでこそロータリー」  
指揮 鈴木郁夫君

### 会長挨拶

副会長 原 久一君

皆さんこんにちは、暑さ寒さは、彼岸までと昔から言われています。彼岸の中日、春分の日になりますと夜と昼の長さが同じと言われ彼岸が過ぎると気候も穏やかで、過ごしやすくなります。4月1日は桜の花が満開になり花見の時期となります。併せて元号の改元が行われます。中国から伝えられた元号も中国では、清朝の崩壊とともに無くなったようです。日本になじみのある愛新覚羅溥儀がラストエンペラーと言われ最後の皇帝でありました。

さて私は、彼岸明けの24日はPETS「会長エレクトセミナー」に佐々木さんと浜松に行ってきました。

2019～2020年度国際ロータリー会長は、米国アラバマ州・ジケーターRC・マーク・ダニエル・マロニー氏です。マロニー会長の国際協議会本会議で次年度のテーマは「ロータリーは世界をつなぐ」が発表されました。「ロータリーの奉仕を通じて、有能で思慮深く、寛大な人々が手を取り合い、行動を起こすためのつながりを築いてまいりましょう。」と唱えております。

国際ロータリー2620地区2018～2019ガバナーエレクトは、安問みち子氏(浜松ハーモニーRC)英語が堪能で気さくな人柄です。

昔から彼岸が明けると過ごしやすいく気候と言われていたのが相反してロータリーの重責が重くのしかかり始めたようです。複雑で思慮深い気持ちで来年の紫陽花の開花時期が待ち遠しく思う今日この頃です。ご挨拶とさせていただきます。

### “こんにちは、ようこそ”

ゲスト 古長谷稔さん(川名君のゲスト)

### 出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席率
前々回	33/40	82.50%	34/40	85.00%
今回	33/39	84.62%	会員総数	47名

欠席者 赤池君、芦川君、加藤君、千葉君、橋本君、矢野君

### 幹事報告

幹事 前田博利君

① 苗栗RC第48回 記念式典に参加してまいりました。ご協力頂いた皆様、お疲れ様です。また、国際奉仕委員会の皆様、台湾交換中学生事業、お疲れ様でした。

再来年、苗栗RCは50周年を迎えます。皆様を心よりお迎えしたいとの事です。ご協力を宜しくお願い致します。



2018～2019年度  
国際ロータリー会長  
ラリー・ラシン

インスピレーションになろう

## おめでとう

会員誕生日 伊丹君  
結婚記念日 野田君

## スマイルボックス

- ◆佐野会長・西本国際奉仕委員長、苗栗交換研修中学生は無事に帰国しました。
- ◆川名君、娘が台湾交換研修では大変お世話になりました。昨夜無事に帰ってきました。昨夜遅くてまだ話をしていませんが、とても楽しかったみたいです。
- ◆遠藤(眞)君、孫が台湾交換研修を終え無事帰国しました。ありがとうございました。
- ◆鈴木(正)君、明治大学マンドリン倶楽部の第43回定期演奏会が5月11日(土)に沼津市民文化センターで開催されます。今年はせせらぎ三島RCの30周年記念行事と重なってしまいましたが、奥様、お知り合いの方の為に買い求めください。すばらしい演奏会です。詳細はテーブルにチラシを置いてあります。チケットは鈴木正二まで。
- ◆伊丹君、4月5日から5日間ベトナムに行ってきます。仕事です。面接です。今、隆泉苑にあるしだれ桜が満開です。ライトアップして、毎夜写真家の方が来ています。

## 委員会報告

国際奉仕委員長 西本和夫君

3月23日の台湾苗栗RC創立記念式典に参加いただきました会員とご家族、関係者の皆様、大変ありがとうございました。また、台湾苗栗交換研修中学生の8名の引率に係っていただきました佐野会長ご夫妻・前田幹事・遠藤正幸ご夫妻と宇田川副委員長、ご苦勞様でした。原副会長には清水町庁舎の駐車場使用に尽力していただきました。昨晚の帰国の際は佐野会長、遠藤眞道・栗原両パスト会長に羽田国際空港まで迎えにきて頂き本当にありがとうございました。

交換研修中学生8名も無事1週間を過ごしてきました。4月11日に報告会が有りますが、本日は御礼と報告をさせていただきます。

## 卓話

### 三島の防災・減災の提案

川名正洋君  
ゲストスピーカー 古長谷稔さん

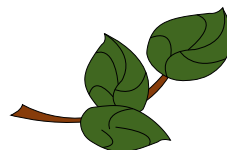
南海トラフ巨大地震を迎え撃つ心構えと題し三島市5つの町内で防災アドバイザーを務めている古長谷稔氏に話を頂きました。

とんでもない規模や被害が想定される南海トラフ巨大地震が、今後20年以内に来ると言われています。その規模は阪神大震災や中越地震、東日本大震災、福島原発震災そして富士山噴火までもが同時多発的に発生するくらいまさに地球史上過去に例のない規模の災害だと想定されています。

これに対して古長谷氏はこれをマイナスとして受けとめるのではなく、地域の横のつながりを強化するチャンスと捉えてはどうか。子どもやお年寄りのいる家庭こそ、自宅で避難生活できる準備をとの提案をされています。

具体的には回転備蓄(ローリングストック)や汚物を燃えるゴミとして処理する自宅でのトイレ対策、簡易テントやブルーシートの必要性や有用性など話されました。

また、町内会単位の共助の重要性についても力説され、誰が町内会長であっても命に関わる初動72時間を無駄にしない工夫として、あらかじめ災害時を想定し、いざとなったらその箱を開けなさいという言い伝えを広めつつ、その時に災害対策本部を立ち上げるためのノウハウを詰め込んだ「防災玉手箱」を整備しようと呼びかけました。この「防災玉手箱」は現在、市内5町内会で導入済みとのこと。さらにこれを三島市内の他町内会、静岡県内に広げていく活動が大事だと古長谷氏は語っていました。



(週報担当:木村安紀夫)